

# おいしくなあれのじゅ文

鹿児島県 出水市立野田小学校二年

松田 龍司

「ザクザク、キュッキュツ、まだまだ白いお水だね。」

ぼくは、夏休みのお手ついでで、おこめときを、はじめておかあさんに教えてもらいました。今まで、ごはんをたべるばっかりで、おこめをあらったり、ごはんをたいたりすることなど考えたことがありませんでした。

「ぼくも、おこめをときたいなあ。」

というとき、おかあさんがびつくりしたかおで、でもすぐににとわらつて、

「ようし、やつてみようか。」

と言いました。おかあさんは、ながしで、ぼくがおこめをあらえるように、イスをじゅんびしてくれました。

ボウルの中に、はかったおこめを入れると、すきとおつていた水があつという間に白くにごつていきました。

「おこめをやさしくかきまぜてごらん。」

と、おかあさんが言いました。

ザクザク、キュッキュツ、おこめがなきました。ザクザク、キュッキュツ、もうすこし。そうつとお水をながしてもう1回。

「おいしくなあれ、おいしくなあれ。」

三回ぐらい、ぼくは、おかあさんといっしょに、じゅ文をとなえながら、おこめをときました。白くにごつていたお水も、だんだんすきとおつていきました。

心をこめてといだおこめをすいはんきに入れて、スイッチを

おします。

「おいしいおこめがたけるかな。」

ぼくは、たのしみとふあんでいっばいで、ごはんがたけるまで、ずっとすいはんきを見つめていました。まつている間は、とてもながくかんじました。やつとゆげが出てきて、ごはんがたけました。

今夜のごはんは、カレーです。ぼくはいちばんに、ごはんのおかまのふたをあけました。どきどきしながら、中のごはんを見ました。ゆげがおおにあたつて、あつかつたけど、中を見てみると、まっ白でびかびかのごはんがたけていました。

「うわあ、すごい。おいしそう。」

ぼくは、今まで何回も、たきたてのごはんを見たことがあるのに、いつもよりも、びかびかひかつたごはんに見えました。

きつと、おかあさんといっしょにとなえた、おいしくなあれのじゅ文が、きいているのだなあと思いました。

ぼくは、じぶんがたいごはんがびかびかがやいているのがうれしくて、うれしくて、カレーを何ばいもたべました。おかあさんも

「いつものよりおいしいね。」

と、言つてくれてうれしかったです。

いつもおいしくなあれのじゅ文をとなえてごはんをつくつてくれていたんだね、おかあさん。ありがとう。また、おこめをといであげるよ、おかあさん。そのときも、おいしくなあれのじゅ文をいれてね。